KAWASAKI STEEL GIHO Vo2. (1970) No.1

60kg/mm2

On the Initiation of Brittle Fracture at Weld Part of Spherical Storage Tank Fabricated with 60kg/mm2 Class High Strength Steel

	(Sadayuki Saito)
:	
Irwi	n

Synopsis :

In recent years the spherical type has become the most popular for gas holders, but it is difficult to fabricate this type of gas holds lewithout any angular and alignment distortions and cracks at weld parts. Improper fabrication, there fore, may cause stress concentration at weld parts and lead to possible brittle fracture. Calculation was made as to how the occurrence of brittle fractwas affected by angular and alignment distortions as well as cracks at weld parts, using Yata's method for the former and Irwin's theory for the latter. As a result, it was found that even a small crack, if combined with a distortion at a weld part, tobulead to brittle fractures. It would, therefore, be most important to hold down the geometric distortions to a minimum at the fabrication stage, and to exercise careful Ay inspection after the fabrication.

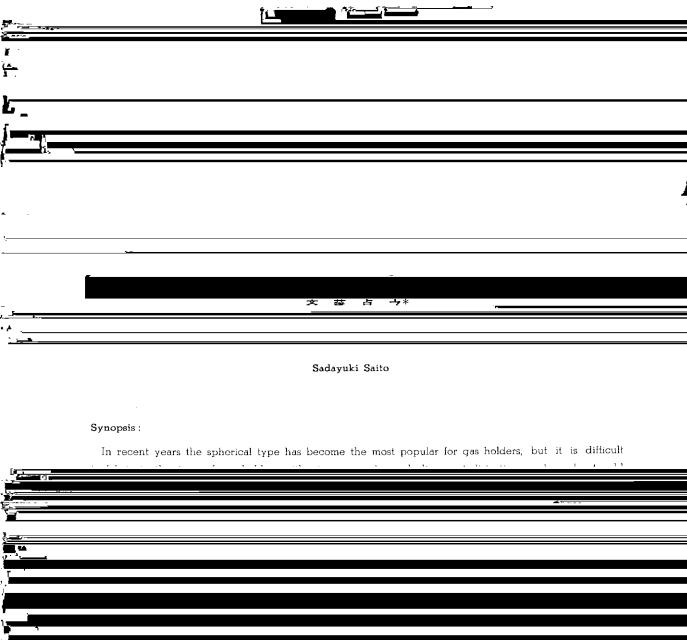
(c)JFE Steel Corporation, 2003

UDC 669, 14,018,292:621,791,019:539,3/4

60 kg/mm² 級高張力鋼を用いた球形タンク溶接部に

発生する脆性破壊の検討

On the Initiation of Brittle Fracture at Weld Part of Spherical Storage









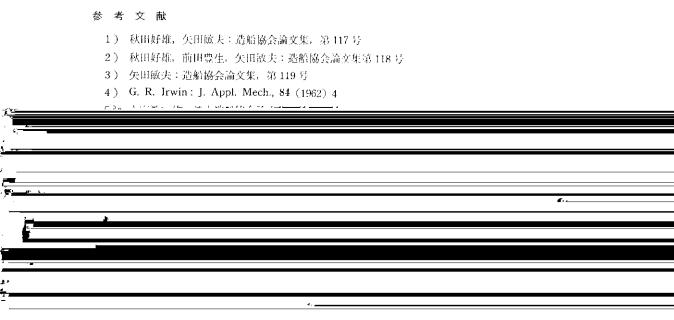
	•		
-			

•	らに溶接施工後残留応力が残るので σ _m =0.6σ _g として以下のような数値を与える。 (i) 弾 性 係 数: E=2.14×10 ⁴ kg/mm ² (ii) 塑 性 係 数: E'=2.0×10 ² kg/mm ² (iii) ポアソン比: ν=0.3 (弾性範囲) " : μ=0.5 (塑性範囲)	純引張りによる誰を加えて日違いによる歪の増加 分は約15%である。完全塑性域では $\varepsilon_{b}' \ge \varepsilon_{b}$ の関 係は $\varepsilon_{b} = \varepsilon_{b} \left(1 + \frac{23 d}{\omega_{o}}\right) \dots (2 \cdot 17)$ となりさらに大きく影響する。ただし(2 · 17)式は <u>時天971 を しの取り</u> の思介でま <u>7</u> 」は <u>取り、</u> の思介
دو محمد	×	
<u> </u>		
- 		
<u>;</u>		
·		
) – – – – – – – – – – – – – – – – – – –		
	$\sigma_{y} = 60.0 \text{ kg/mm}^{2}$ $\sigma_{b} = 70.0 \text{ kg/mm}^{2}$	については比較を省略するが大体同様の影響を与 0.3 (
• •		
	- 1	
۲ ۱۰		
c —		
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
ar An an		
×		
÷		
- 		
<u> </u>	//////////////////////////////////////	



	88 JI	崎 製 鉄 技 報	January 1970
			1の物面かけてはかった?
-			
	・) ¹ 改計前日日日二日一日二日 単一	+	
	1		
Y			
· /			
			si
<u> </u>			
, *			
_			
	場合	楕円形状の時はこの	理論の適用範囲 外 と な る.
	場合	$t_1/c=1$ の時は半円用	
	3・1 脆性破壊発生の条件	t _i /c=1 の時は半円用 一方 K _B 値は大庭	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の
		t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の
	3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。
	3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。
	3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。
	3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。
 	3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。
	3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。
(3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。
 	3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。
(3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。
(3・1 脆性破壊発生の条件 近年 K _{te} (crack tip stress intensity factor)	t ₁ /c=1 の時は半円所 一方 K _B 値は大庭 を 方法で次のように仮	⁄切欠きとなる。 ら ^の が仮定した方法と同様の 定する。

		na je svoje na naveljena svoje
·····		
- <u>1</u>		
-	A	
<u></u>		
,		
,		
_		
1.		
·		
<u>.</u>		
	前章と同じく 1000 m ^a プロパン用球形タンクに	一般的に. Kne 値は材料に固有の数値であり(溶
	和当する数値を用いて計算した結果を図13,図14	接棒の取合いなどによっては変化するが), 諸 材
	に示す。図13には Kre=700 の場合も参考として	料,溶接方法を決定し,Kne 値と絶対温度の逆数
	⇒ 1, 5, 5 二 ⇒ 1, 5, 5 二 ⇒ 0, 6 を超えると	との関係が得られておれば σm, t, 試験温度を設
		二 たれい ふかだれ われれがた ミニュールアト デビ
	· · ·	
	19 . Fast - F	
·		
	-	
12		



6) W.F.Brown, and J. E. Srawly: "Plane Strain Crack Toughness Testing of High Strength Metallic Materials" ASTM STP No. 410

